

# [だんく]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務所 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege: Oden Building 21-4 Higashi-

Marunouchi Tsu JAPON ☎ 0592 (26) 3159

NO 014 le 20 Octobre 1990 SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE



## 久々に「全国日仏協会の集い」開催

### 三重日仏協会から二人が参加

第4回「全国日仏協会の集い」が、去る9月18日、3年ぶりに大阪・大林ビルで開催され、三重日仏協会からは、豊田元子理事と山田紀美運営委員が出席しました。折りからの台風19号の影響で、いくつかの協会がやむなく欠席となったほか、ゲストの大使館の方々も予定より遅れるという不測の事態のなかでの開会でした。それでも、北は札幌、南は大分からと、全国16の協会が参加しました。

第一部は、大使館からJ. クロード・ルドネイ文化参事官、アリアンス大阪のシュミット館長を迎えて、各協会の活動報告を中心とした会議。第二部は懇親会でしたが（写真）、M. ドラン駐日フランス大使、ルネ・ベレ総領事という豪華な顔ぶれも加わったなか、協会相互の情報交換など歓談が尽きることなく、盛会のうちに終わりました。「集い」を通じて得られた各協会の活動の情報は、今後私たちにとって大きな参考になることと思います。

## 仏検受験体験記

菅谷 光美



「文部省認定 実用フランス語技能検定試験」という文字が、私の眼に飛び込んできたのは、結婚して一年半、平和だけれど刺激もなくほんの少し退屈していたある日のことでした。

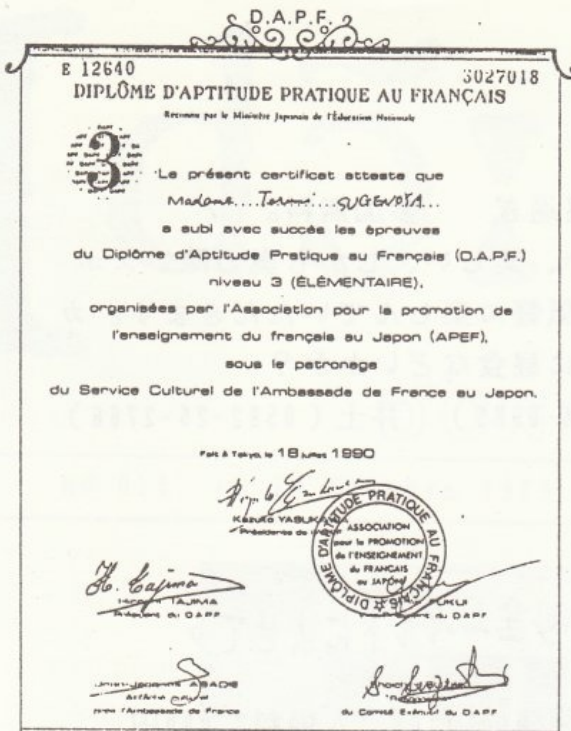
私がフランス語にはじめて触れてから、早くも十年になります。大学時代にはフランス文学を専攻し、ずいぶん仏和辞典と仲よくしていたはずなのに、卒業後フランス語はあっという間に遠い記憶の彼方へ…。そんな時、ふとしたことから三重日仏協会主催の入門講座に参加し、それがきっかけで再びフランス語を学びたいという気持ちがむくむくと湧いてきたのです。そして始めたのがリエゾン・フランス・ジャポン津校の会話教室でした。

週一回、一時間、フランス人の先生とのレッスンは、毎回またたく間に過ぎてしまいました。最初は全然聞き取れなかった言葉も、休まず通ううちにだんだんと耳慣れてきて、やがて少しずつ理解できるようになってきました。たとえ小さなことでも自分の考えを表現し、それが相手に伝わった時の喜びは忘れがたく、レッスンを続けて行く力になりました。そうして、ただ漫然と通うだけでなく、そろそろ自分の頭の中のフランス語を整理したいなと思い始めていた今年の4月、この検定の存在を知ったのです。

さて何級を受験しようかと迷った末、4級と3級を併願することに決めました。まずは力だめし、というところでしょうか。早速、過去の試験問題などにあたってみたところ、

4級の問題は確かに易しく、大学の第2外国語としてしっかり勉強していれば、まず大丈夫といった程度。これは落ちる訳にはきません。とは言っても、複雑な動詞の変化形やアクサンの有無などいざ正確に表記するとなると少々不安です。確実に得点に結びつけるには、いかに自分の知識が曖昧であったかを改めて思い知らされ、反意語、性・数の変化のほか国名、数字などの基本的な単語を正しく表記する練習をして備えました。3級の問題集の例題は4級に比べて内容に変化があり、やってみてけっこう楽しめます。3級の試験準備としては、複合過去、半過去、接続法など文法の復習をし、前置詞の使い分け、対話文の慣用句などを重点的に押さえておきました。一方、聞き取り試験に関しては、一朝一夕にはいきそうもなく「リエゾン」での日頃の成果に期待するしかありません。因みに3級では第一次に筆記、さらに第二次に面接が課せられます。商業通信文、規約、広告文、請求書、時刻表など出題範囲も広がり、はじめてお目にかかる単語が続々登場して、こちらの方はまだまだ勉強が必要といった感じでした。

6月3日、いよいよ試験当日。名古屋地区の会場は愛知県立大学、受験者は百数十人ほどでしょうか。顔ぶれを見ると大部分はやはり大学生のようです。この「仏検」の第一回が行われたのは1981年、文部省から認定されるようになったのが1986年だそうで、もっと早くこの検定を知っていたら…という思いが



します。4級の方は、筆記試験が午前10時から10時45分まで、聞き取り試験が11時から10分間と短時間で終了。私にとって本番といえる3級の試験は、筆記が14時から15時20分まで、聞き取りが15時35分から15時50分まででした。さすがに帰りのタクシーでは疲労のためにぐったりしてしまいましたが、試験準備の甲斐あって結果はまずまず。

待望の合格通知は7月末に手元に届きました。

フランス語を自由に聞き、話すなんて私にとっては遠い夢。フランス映画を観たり、シャンソンをBGMにお料理をしたり…そんな風に日常のなかでフランス語を楽しめたらそれだけで満足、とずっと思ってきました。ほんの気分転換のつもりで挑戦してみた今回の仏検受験でしたが、今までなんとなく続けてきたことが一枚の合格証書という形になって表れ、はるか彼方にぼんやりと次の目標が見えてきた気がします。目指すは2級合格…！かなり手強い相手ですが、いつかこの大きな合格証書が手に入ったら、素敵な旅を自分にプレゼントしましょうか。いつになるか、そして本当に実現するのかわからないけれど、その時は、きっとパリへ。

## Bus がきた、Bi がきた?

フランス人にかぎったことではないと思うが、とにかく彼らは外来語を自国語流に扱うくせがある。かりにハギムラ・ナギサさんという人がいてローマ字つづりで署名したとすると、たちまちアジミュー・ナジサのように読まれてしまう。どの煙草屋でもデュニールといわないと Dunhill は買えなかった。普通名詞も、week-end や sandwichこそ英語風に発音されるが、shampooing はシャンポアン、ticket はティケである。

日本語にもなっている bacteria 細菌は、じつは bacterium の複数形で、もとはギリシャ語由来のラテン語らしいが、英語では忠実にこの単複変化を守っているのに対し、フランス語では bactérie, bactéries で国語化している。生物学の分野でよく使われる locus 座、位(遺伝子などの)もラテン語で、複数は loci。英語もそのとおりだが、フランス語では単複とも locus という。研究所内の討論会などで誰かがうっかり loci とでもいおうものなら、non とか oh là là とかうるさく、locus? といいなおして会場にはほえみかけると安心したように大きくうなずく。外来語でも祖先語でも、すでにフランス語になった以上、単数名詞の語尾が s で終れば複数も同形というのが理屈であろうが、そんな説明よりも彼らのいいたがるのはこうだ。「2台きても3台きても、やはり <autobus がきた>というだろう。誰も <autobi がきた>とはいわない」。

( Ours )

## PETANQUE

### 11/11(日) 親睦ペタンク大会

津市 お城西公園 am10:30～お昼過ぎ 参加無料。

ペタンクはフランスで親しまれている軽い、楽しい、しかも奥の深いスポーツです。初めての方も手ほどきをして、気軽に楽しんでいただきます。カップ、景品も用意。競技のあと、いっしょに昼食などいかが？

雨天中止。お問い合わせは 米沢(0592-28-0689) 井土(0592-26-2766)

## CONCERTS

### 10/30(火) 針谷宏弥ピアノコンサート <シューベルトによせて>

津・リージョンプラザお城ホール 開演pm 7:00 入場料2,000円

シューベルト ピアノソナタD.960 三つの即興曲 ほか

### 10/31(水) 菅原美枝子ピアノ・リサイタル

津・リージョンプラザお城ホール 開演pm 6:45 入場料2,300円

ベートーヴェン エロイカ変奏曲, ショパン バラード第3番ほか

\*針谷さん、菅原さんとも三重日仏協会会員です。

### 12/19(水) 伊藤隆之ピアノリサイタル <喝采のコンサート'90 No.10>

名古屋・テレピアホール 開演pm6:45 入場料3,000円

ショパン ソナタ第3番, ドビュッシー 喜びの島 ほか

\*伊藤さんは本会会員・伊藤幸子さんのご子息で、パリ在住。

日仏友好のモニュメント日本委員会 主催

### <日仏友好のモニュメント> 愛称募集

1998年、フランスから日本へ雄大な<日仏友好のモニュメント>が贈られ、兵庫県淡路島に完成します。正式の名は『淡路：回帰線の庭』。しかしもっと親しみのもてるニックネームをつけてもらおうということで(『自由の女神』のような)、広く募集することになりました。締切りは11月末で、最優秀作品にはフランス一週間の旅行がプレゼントされます。要項の詳細は事務局(井土0592-26-2766)まで。